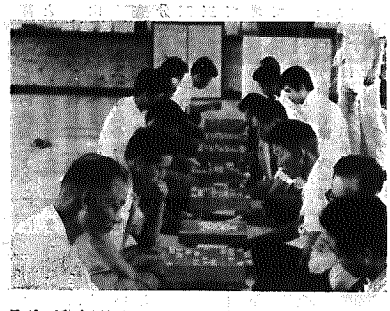
村将棋大会

初代名人位に田村戈吉氏
王将位に伝富男氏



誰れでも気軽に楽しめる健全娯楽としてまた研究すれば、必ず上達する頭脳スポーツとして将棋は今、全国的に静かなブームを呼んでいます。

そこで村商工振興会は、公民館の後援を得て多くの村民から将棋を楽しんでもらおうと、八月二十日第一回横越村将棋大会を開催しました。

競技は、第一部名人戦（六〇才以上）と、第二部王将戦（六〇才以下）とにわかれ、それぞれ白熱した好勝負がくりひろげられました。

その結果、第一代名人位に田村才吉氏が、第一代王将位には、伝富男氏がなりました成績は次のとおりです。

☆第一部　名人戦

名人位	田村　才吉（小杉）
二　位	佐藤　豊吉（横越）
三　位	桜井曾一郎（横越）

☆第二部　王将戦

王将位	伝　富男（木津）
二　位	村木　勧（二本木）
三　位	永井　貞次（横越）

ロートルズが初優勝

村野球大会

昭和四十七年度村民野球大会は、八月十六日、二十七日の両日、横越中学校グランドと新設された焼山球場で開催された。

十六日、ジリジリ焼けつく猛暑のなか、十四チームが出場、熱戦がくりひろげられ、ベストホアに五十嵐自動車沢海、横越村役場、二本木A、ロートルズ（横越）が勝ち進んだ。

決勝戦は、昨年優勝した沢海チームの主力選手を集めた五十嵐自動車沢海と今大会出場中、最年長チームのロートルズが対戦、ロートルズが延長九回接戦のすえ、三対二のサヨナラ勝をし、初優勝したこの大会で、中村太君（小杉）は、焼山球場で九十扇を越す大ホームランを三本打つた。また、横越村役場対木津Aの試合で33対1のスコアーがでるなどと好プレー、珍プレーが続出した。

①ロートルズ（横越）
②五十嵐自動車沢海
③横越村役場
③二本木A

家庭教育 ③

見ないとはじをかくんだ
＝選択能力の指導を＝

現代っ子から遊びをうばったのは、何んでしょう。進学一本やりのゆがんだ家庭教育、発展という名の遊び場破かいが、その本当の原因ではないでしょうか。

遊び場をうばわれ遊びを忘れてしまった。そんな時部屋の片すみで子どもの心を楽しませてくれるテレビ・マンガがなだれ込むんでいます。

マスコミは常に不特定多数を相手にします。そして送り手はできるだけ多くの人たちに選択されるよう工夫して情報を送り出します。

そこに読者、視聴者への興味づけが、おこなわれるのです。しかし、人目をひくことばかり先にたちすぎ、いつか興味本位を走ることになってしまうのです。その結果どうだったでしょう。子どもの世界から子どもの歌がなくなりコマーシャルソングがそれにとって変りました。また流行語が子どもの口からポンポンとびだし、えたいのしれない和製英語などで、国語のみだれは、いきつくところまできてしまったかんじです。

テレビ、マンガ、週刊誌は、子どもの社会における媒体として、すでに社会的な存在となっています。成長期の児童、生徒にとってマスコミの及ぼす功罪は大きなものがあります。また、こうした環境の中で子どもたちに正しい選択能力を指導していく親のつとめが、大切です。

番組は怪獣ものから、スポーツ根性もの、そしてセックス路線いわゆるポルノをまっしぐら、こんな環境の中で子どもにもし、正しい選択能力がなかったらどうでしょう。

そうかといって、勉強にじゃまになるかといってテレビを見せないわけにはいきません。

テレビは現代人の生活の一部となっているのですから子どもにとっても同じこと。子どもたちの遊びの中で、つきあいの中で活躍の中心はきのう見たテレビであり、マンガの主人公の活躍なのです。

子どもは、子ども同志の社会の中にもまれ、それなりの発言ができ、それなりの役割をはたすことによって、はじめて健全な成長を期待できるのですから、テレビ、マンガもまた成育にかかせぬ糧の一つなのです。

親は、テレビ、マンガのある生活のルールを子どもといっしょに作っていくことが必要でしょう。そこで提案したいのです。

①わが家の推せん番組をきめたらどうでしょう。

「これは見るな」というよりも「これだけはみんなでみよう」ときめ、読書力や思考力をつけさせることが大切です

②テレビ、マンガを見る時間など生活規則をつくったらどうでしょう。

勉強をする時間、テレビなどを見る時間やチャンネル当番などをきめておくこともよいことです。

③テレビ、マンガなどを話題に子どもたちとの話し合いの糸口にしてはどうでしょう

家族でみて、そのストリーにそいながら親子で話し合ってみることです。子どものかくれた一面を発見することができます。

なんといわれても
マンガが好き

テレビ・マンガ

うんどう会
小杉小学校三年　関根不二子

≪評≫
これは運動会の絵です。〝旅のサーカスだん〟という特殊走でみんなピエロになって走りました。初めは平均台のつなわたり、次がボールをはさんで走る玉のりで、後ろに見えるのがそのボールです。最後がなわとびを使った空中ブランコ。手前に見えるのはゴールのテープで、一番大きく、がんばって走っているのがふじ子さんです。
（小杉小　秋山百合子先生）

東京の小学生

公民館で水泳合宿
本村出身、小林氏引率

子どもたちが、学校生活を離れて、一番解放感を味わうであろう「夏休み」を、海や山などに、家族旅行など、個々のスケジュールと、グループで、集団での活動にと、それぞれプランがたてられて楽しく計画が行われたことであろうと思う。

こうしたグループ活動の一つとして、東京在住の本村出身、小林正平氏（沢海）が、水泳の強化合宿を兼ねて、横越学区青少年育成会の新田子ども会（代表・横小6年、桜井豊君）と、交換会など四泊五日間の日程で公民館で合宿されました。

小林氏は、東京で現在株式会社「新武蔵野村」の取締役のかたわら、小、中学生を集めて「水泳クラブ」を組織して指導に当っています。今回は世田谷区、松原小学校の四年から、六年生の男女九名と中学一年生二名が、去る十七日に来村し、会場の横越村公民館で、新田子ども会と、楽しい交換会が催されました。

この席上、間教育長、田中公民館長から「都会ッ子の皆さんから、農村地帯の子ども達の生活を通して、多く学んでほしい。また新田子ども会も東京の人と、仲良く話し合ってほしい」等と挨拶され、自己紹介などのあと、話し合いを行い、終了後にさっそく水泳着に着替えて、プールで初練習が始められました。

一行は第一日の夕食のあと新田子ども会が、八月の行事計画で予定していた「花火大会」が、午后八時から横中グランドで実施された会場に参加し、同子ども会と夜空を色どる各種の花火に、楽しい歓声をあげていました。

合宿第二日からは、午前九時から三十分、午后は一時から、一日平均二〇〇〇米を泳ぎながら、競泳の基本的な練習に打ち込んでいました。

最終日の二十一日は、本村四小学校の「水泳大会」にオープン参加の予定であったが折悪しく天候に恵まれず、このため、横越小学校の五、六年と、オープン競技を行いました。

県青年大会
剣道三位

県青年大会は、八月十九、二十日の両日、上越市を会場に開催されました。

本村青年団は、中蒲代表としてバスケット、剣道、神楽舞に出場。

剣道団体で三位に、また個人戦でも田村初男君が三位に入賞するなど健闘をしましたが、バスケットは、強豪長岡市と第一回戦で対戦、惨敗しました。

また、今年度はじめて芸術文化部門に木津青年の神楽舞が出場しましたが、入賞をすることができませんでした。

村民大運動会を十月十五日に開催いたします。ふるって参加ください。

こどもサロン

小杉小学校四年　遠藤明子

≪評≫
夏休みの宿題で書いてきたものです。形も整って、しかものびのびと力強く書けています。〝止め〟に注意して書いたら、なお堂々とした字になったと思います。
（小杉小　斎藤ミサ先生）